# 新潟県防災教育プログラム

# 【地震災害編】

平成26年2月 (平成27年10月(※一部データ修正))

# 目 次

1	. 地震災害編の基本的考え方	- 3
2	. 各教科の地震災害に関連する授業内容	- 4
3	. 地震災害編のカリキュラム構成	- 5
4	. 学習指導案【必須学習項目】	- 7
	必須-1 小学校低学年「地震からの身の守り方(学校内)を学ぶ」	- 8
	必須-2 小学校中学年「地震からの身の守り方(学校外)を学ぶ」	- 10
	必須-3 小学校高学年「揺れがおさまった後の身の守り方を学ぶ」	- 12
	必須-4 中学校「地震の発生状況に応じた身の守り方を学ぶ」	- 14
	必須-5 中学校「避難所と避難者について考える」	- 16
5	. 学習指導案【選択学習項目】	- 19
	選択-1 小学校低学年「学校内の危険箇所を調べる」	- 20
	選択-2 小学校中学年「地震への備えを知る」	- 22
	選択一3 小学校中学年「避難所を見学する」	- 24
	選択-4 小学校中学年「防災倉庫を調べる」	- 26
	選択-5 小学校高学年「避難所までの避難ルートを調べる」	- 28
	選択-6 小学校高学年「地震の被害から生活への影響を考える」	- 29
	選択-7 小学校高学年・中学校「安否情報を発信できるようにする」	- 30
	選択一8 中学校「避難所運営計画を作成する」	- 32
	選択-9 小学校・中学校「地震災害について話を聞く」	- 34
6	モデル校における授業実践の紹介	- 37

### 1. 地震災害編の基本的考え方

日本は世界でも有数の地震多発国であり、古来より各地で地震災害が発生しています。新潟県においても、江戸期(1828年)の文政三条地震をはじめ、昭和39年(1964年)の新潟地震、平成16年(2004年)の中越大震災、平成19年(2007年)の中越沖地震、そして平成23年(2011年)の長野県北部地震(新潟・長野県境地震)と、都市部、山間部を問わず大きな被害をもたらす地震を経験してきました。さらに近い将来、首都直下地震、東南海地震などの大規模な地震災害の発生予測が示され、全国的に地震への備えを進めるよう警鐘が鳴らされています。最近の災害への備えや防災に関しては、次のような動向が見られます。

#### ①「減災」という考え方の広がり

自然の力は大きく、自然災害を完全になくすことは困難です。そこで災害が発生した時には、その影響や被害を最小限に減らす(=減災)という視点を重視して、命や財産を守る取組(防災)を進めるという考え方が広がっています。

#### ②自助・共助・公助による防災

防災においては、自ら備える「自助」、国や自治体などの公的機関による「公助」に加えて、住民同士や企業、行政などが連携・協働して支えあう「共助」という考え方が広がっています。特に阪神・淡路大震災以降、防災関係のNPOやボランティア・グループが様々な活動を展開しており、自治体間や自治体と企業の相互支援協定といった共助の動きが広がっています。

#### ③ハードとソフトの防災活動の展開

減災のためには、建物の強靭化や各種防災施設の整備(=ハードの取組)が欠かせませんが、防災知識の普及・啓発や地域ぐるみの防災体制、児童生徒の防災教育などといった地域社会の防災力を高めるためのソフトの取組も重要です。学校には、避難所としての機能だけでなく、地域防災のソフト面での拠点としての役割も期待されています。

新潟県防災教育プログラム地震災害編の制作に際しての視点及び方針は以下のとおりです。

#### (視点)

- ◆児童生徒は地震発生時の基礎的な対処法は理解しており、より実践的な「身の守り方」 の学習が重要である。
- ◆新潟県の地震災害は直下型が予想され、揺れによる被害や二次災害の可能性も大きい。
- ◆地震災害は他の災害に比べて避難者が多くなり、避難生活が長引く可能性が高い。

#### (方針)

- ①必須学習項目は、地震発生から避難まで「いかに身を守るか」を重点的に学ぶ内容とする。
- ②地震発生のメカニズムや過去の歴史などについては選択学習項目で扱う。
- ③児童生徒の発達段階や行動圏、地震発生からの時間経過等に留意し、必須学習項目の テーマを以下のように設定する。
  - ○小学校低学年 「地震発生時の身の守り方(学校内)」
  - ○小学校中学年 「地震発生時の身の守り方(学校外)」
  - ○小学校高学年 「揺れがおさまった後(地震後)の身の守り方」
  - ○中学校 「地震の発生状況に応じた身の守り方」

「避難所と避難者について考える」

# 2. 各教科の地震災害に関連する授業内容

各学年の教科の中には、地震や防災に関連する授業内容があり、これらの単元の中でも防 災教育を実施することができます。児童生徒にとっては地震災害に関する内容を様々な場面 で繰り返し学ぶこととなり、教育的効果も高まります。

そのための参考情報として、新学習指導要領に示されている地震災害に関連する科目や指導項目を以下に掲載します。

学 年		社会	理科	その他
	1・2年			
	3年	<ul><li>身近な地域の地形</li><li>・地域の土地利用</li></ul>		<道徳> ・命の尊さ ・自然への注目 →すばらしさ、不思議さ
小学校	4年	・地域における災害 防止の取組	・天気の様子	
	5年	・国土の地形や気候 ・自然条件と地域の 暮らし ・自然災害の防止	・天気の変化 ・流水の動き →侵食・運搬・堆積	〈道徳〉 ・郷土の伝統や文化、
	6年		・土地のつくりと変化 →地層・土地の変化 火山や地震と土地	先人の努力
	1年	・身近な地域の調査	・火山と地震 ・地層の重なりと過去 の様子	・地域社会の一員
中学校	2年	・地域の歴史や文化	・気象観測 ・天気の変化	・地域社会の一員 ・愛国心及び伝統・ 文化の継承 ・国際人
	3年	・伝統や文化の継承 ・国や自治体の役割 ・世界への貢献	・自然の恵みと災害 ・自然環境の保全と 科学技術の利用	・愛国心及び伝統・ 文化の継承 ・国際人

# 3. 地震災害編のカリキュラム構成

新潟県防災教育プログラム地震災害編におけるカリキュラム構成は、以下のとおりです。

	小学校			ch ## +#
	低学年(1・2年生)	中学年(3・4年生)	高学年(5・6年生)	中学校
必須学	<ul> <li>必須-1</li> <li>地震からの身の守り方 (学校内)を学ぶ</li> <li>・学校のイラストから地震の危険性について考える。</li> <li>・身の守り方(机の下に隠れる)を実践する。</li> </ul>	<ul> <li>必須一2</li> <li>地震からの身の守り方 (学校外)を学ぶ</li> <li>・家庭や町中のイラストから地震の危険性について考える。</li> <li>・家族の連絡先(携帯電話の番号)を覚える。</li> </ul>	必須一3 揺れがおさまった後の身の守り方を学ぶ・地震後の家や家の周りの状態を知る。・揺れがおさまった後の危険と、身の守り方を考える。	必須一4 地震の発生状況に応じた 身の守り方を学ぶ ・3つの地震(阪神・淡 路、中越、中越沖)の 特徴を知る。 ・発生時期、場所に応じ た身の守り方を考える。
須学習項目				必須一5 避難所と避難者について 考える ・中越大震災、中越沖地 震の時の避難所の様子 を知る。 ・避難所における中学生 としての役割や行動に ついて考える。
	選択一1 学校内の危険箇所を調べる ・学校内を歩いて、地震 が起こった時に危険な 場所を探す。 ・歩いた結果をもとに マップを作成する。	選択一2 地震への備えを知る(家庭でできること) ・地震災害の被害を防ぐための備えについて学ぶ。 ・安全に避難するための備えと避難所について学ぶ。	選択 - 5	選択一8 避難所運営計画を作成する ・避難所の役割や機能について学ぶ。 ・自分たちの学校をモデルに避難所運営計画を考える。
選択学習項目		選択一3 避難所を見学する ・避難所の位置、役割、 機能について学ぶ。 ・自宅近くの避難所の位 置についても確認する。		
		選択-4 防災倉庫を調べる ・地域の防災倉庫に入っ ている防災備品を調べ る。 ・防災備品の役割を知り、 地震への備えを学ぶ。	選択 安否情報を発信できるよう ・安否情報の仕組みと重要 ・災害用伝言ダイヤルの 覚える。	にする
	· 災		<mark>ー 9</mark> ティーチャー)の話を聞く。 してとらえ、意識を高める。	

- ◆「必須学習項目」は、学校の立地条件等にかかわらず、すべての学校で児童生徒に学習させて ほしい内容です。
- ◆「選択学習項目」は、必須学習項目に加えて、各学校で地震災害に関する防災学習をより深める場合に、学習させてほしい内容の一例です。

#### 新潟県防災教育プログラム【地震災害編】

# 4. 学習指導案【必須学習項目】

必須-1 小学校 低学年 学習のねらい ~地震からの身の守り方(学校内)を学ぶ~ 〇学校のイラストから地震の危険性について考える。 〇身の守り方(机の下に隠れる)を実践する。 知る 考える 行動する

	学習内容(展開例)	指導ポイント・使用資料
	1. 地震について学習することを伝える	
	<ul><li>①「地震」についてどんなことを知っているかを問いかけ、発表させる。</li></ul>	<ul><li>■問いかけの例</li><li>・地震についてどのようなことを知っていますか。</li></ul>
【導入】		<ul><li>■想定される答え</li><li>・身体や家が揺れる。怖い。</li><li>・机の下に隠れる。</li><li>・新潟でも大きな地震があった。</li></ul>
	② 「学校の地しんひがい」 の写真をプロジェクターやモニター等で映し、地震の危険性を知らせる。	◆ <u>資201:学校の地しんひがい</u>
	③学校にいる時に地震が起きたらどのように身 を守るかを学習することを伝える。	
	2. 地震の危険性について知る	
	① <b>ワークシート</b> を配付し、イラストを見て、地 震が起きた時に危ないと思うところに○をつ けさせる。	◆ワークシート01-1 (地震発生前の教室とグラウンドのイラスト) ※A2サイズに拡大して黒板に貼ってもよい。
	②何人かの児童を指名し、教室とグラウンドの場面ごとに、危険だと思った(○をつけた) 箇所と理由を発表させる。	
	3. 地震が起きた時の身の守り方を学ぶ	
【展開】	① <b>ワークシート</b> を配付し、最初のイラストと違う点(地震で変化した点)を問いかけ、発表させる。	◆ <u>ワークシート01-2</u> (地震発生直後の教室とグラウンドのイラスト)
	②イラストの中の児童がどういう行動をしているかに注目させ、なぜ机の下に入ったり、グラウンドの中央でしゃがんでいるのかを問いかけ、発表させる。	<ul><li>■想定される答え</li><li>・棚からランドセルや花びん、本が落ちている。</li><li>・窓ガラスが割れている。 (教室)</li><li>・サッカーゴールが倒れている。</li><li>・校舎のガラスが割れている。 (グラウンド)</li></ul>
	③机の下に入る以外で、頭を守る方法はないか を問いかけ、発表させる。	<ul><li>■想定される答え</li><li>・赤白帽や防災座布団などをかぶる。</li><li>・ランドセルで頭をかばう。</li></ul>

	学習内容 (展開例)	指導ポイント・使用資料
	※時間に余裕があれば以下について実施 ④ワークシート (廊下、図書館)を配付し、イラストの危険箇所に○をつけさせ、ワークシート01-4で危険や身の守り方を伝える。	<ul><li>◆ワークシート01-3 (地震発生前の廊下と図書館のイラスト)</li><li>◆ワークシート01-4 (地震発生直後の廊下と図書館のイラスト)</li></ul>
	4. 地震が起きた時の身の守り方を確認する	
【展開】	①「授業中に地震が起こったらどうするか、今 日勉強したことを練習してみよう」と呼びか ける。	<ul><li>■問いかけの例</li><li>・今、教室が揺れています。地震です。みんな 身を守ってください。(教卓を揺らして臨場</li></ul>
	②地震が起きたことを児童に伝え、机の下に隠れて、帽子やランドセルなどで頭を守る行動を実際に行わせる。	感を出す)
	③例えばクラスを偶数列と奇数列に分け、半分ずつ実施させる。体が隠れているか、机の脚を持って動かないようにしているかなど、お互いに正しく身体が守れているかを確認させる。	
	5. 地震についてわかったことを確認する	
	①学校にいる時に地震が起きた場合の行動 (身の守り方)について、教室やグラウンド などの場所別に振り返り、再確認させる。 ②身体を守りながら揺れがおさまるのを待ち、 揺れがおさまってから、教職員や校内放送の 指示に従って落ち着いて行動することを伝え る。	
【まとめ】		<ul><li>廊下やグラウンドでの身の守り方</li><li>○棚や窓など物が落ちてきそうな場所から離れること。</li><li>○揺れで転ばないように姿勢を低くすること。</li><li>○グラウンドでは周囲に何もない中央部に集まり、揺れがなさまってから行動すること。</li></ul>
		まり、揺れがおさまってから行動すること。 〇余震に注意して、揺れがおさまってもす ぐに動かないこと。 〇教職員の指示や誘導にしたがって一緒に 避難すること。
		○教職員が近くにいない時は校内放送など に注意をすること。

必須-2 小学校 中学年 学習のねらい ~地震からの身の守り方(学校外)を学ぶ~ 〇家庭や街中のイラストから地震の危険性について考える。 〇家族の連絡先(携帯電話の番号)を覚える。



# 指導ポイント・使用資料 学習内容 (展開例) 1. 地震について学習することを伝える ①地しんのときの家やまちのようすの写真を ◆資202:地しんのときの家やまちのようす プロジェクターやモニター等で映す。 ◆資219~242から適宜選択 ②児童に写真や映像を観させた後、感想を聞く。 導 ③家や町中など、学校外で地震にあった時、ど のような危険があり、どのように身を守るか を学習することを伝える。 2. 家庭や町中における身の守り方につ いて学ぶ ①**ワークシート**を配付し、イラストを見なが ◆ワークシート02-1-① ら、家や町中にいる時に地震が起きたら、ど のような危険があるかを問いかける。 展開 く指導ポイント> ②危険箇所や危険なことを記入させ、発表さ 〇大きな地震が起きた場合、自分がどの場 せる。 所にいるかによって(家の中、町中な ど) 危険が異なること。

	学習内容(展開例)	指導ポイント・使用資料
	③ ワークシートを配付し、地震発生直後のイラストを見ながら、各場面ごとにどのような危険があるかを伝える。次に、身を守るためにどのような行動が必要かを記入させ、発表させる。	◆ワークシート02-1-② <b>〈指導ポイント〉</b> ○姿勢を低くして頭や体を守ること。 ○倒れそうなものや棚、窓、塀などから離れること。 ○安全な場所で揺れがおさまるまでじっと待つこと。(揺れている最中や揺れがおさまってもすぐには動き出さない)。 ○近くの大人の指示や誘導にしたがって行動すること。
【展開】	<ul> <li>※時間に余裕がある場合</li> <li>○次のような場面を例示し、自分がそこにいた場合を想像させ、危険の有無や対応行動について考えさせる。</li> <li>(例)</li> <li>「公園にいる時」</li> <li>「エレベーターに乗っている時」</li> <li>「電車に乗っている時」 など</li> </ul>	<ul> <li>◆資料302:場所別対処法一覧</li> <li>■想定される答え</li> <li>・交通機関が動かない。</li> <li>・道路が通れなくなり、お父さんやお母さんが帰って来ることができない。</li> <li>・家の近くで火事が起きて帰れなくなる。</li> </ul>
	<ul><li>④地震はいつ起こるかわからないため、一人で留守番をしている時や公園などで遊んでいる時に地震が起こると、家族と離ればなれになる可能性があることを伝える。また、家族と離ればなれになった時に家族の携帯電話の番号を知っておくと連絡が取りやすくなることを説明する。</li><li>⑤お父さんやお母さんの携帯電話の番号を覚え</li></ul>	<指導ポイント> ○自分で電話をかけられない時には、顔見知りの人や警察や消防の人にお願いして、電話をかけてもらう方法もあること。
	ているかを問いかける。  ⑥ <u>ワークシート</u> を配付し、この授業のことを家で話すように伝え、家族の携帯電話の番号を確認して、暗記することを課題として出す。	◆ <u>ワークシート02-2</u>
	<ul><li>3. 地震についてわかったことを確認する</li><li>①学校以外の場所にいる時の身の守り方について、わかったことを発表させる。</li></ul>	
(まとめ)	②学習した内容を家族に話すように伝える。また、携帯電話で連絡が取れない場合の決まり ごとについても家族で話し合うように伝える。	

学習のねらい ~揺れがおさまった後の身の守り方を学ぶ~ 〇地震後の家や家の周りの状態を知る。 〇揺れがおさまった後の危険と身の守り方を考える。

知る 考える 行動する

	学習内容(展開例)	指導ポイント・使用資料
	1. 地震の後に取るべき行動について 学習することを伝える	
	①学校(教室)で地震が発生した時、身を守る ためにどのような行動をとるかを問いかけ、 発表させる。	<ul><li>■想定される答え</li><li>・帽子やランドセル、座布団などで頭を守る。</li><li>・机の下にもぐって体をしっかりと隠す。</li><li>・揺れがおさまるまでじっと待つ。</li></ul>
導入】	②大きな揺れがおさまった後でも、地面が揺れ たり、物が崩れたりすることがあるなど、 様々な危険があることを伝える。	・教職員や校内放送の指示にしたがって行動する。
	<ul><li>③揺れがおさまった後に気をつけることと身を 守るための行動について学習することを伝え る。</li></ul>	
	2. 揺れがおさまった後の危険について 学習する	
	① <b>地しんのあとの家と周りの様子</b> の写真をプロジェクターやモニター等で映す。	◆ <u>資203:地しんのあとの家と周りの様子</u> ※拡大コピーをして黒板に貼ってもよい。
展開】	②写真ごとに「どこが危険だろうか」「信号が つかないとどうなるだろう」などと問いかけ、 児童の意見を発表させながら、揺れがおさ まった後の危険について学習する。	■想定される答え ・余震で建物や塀が倒れたり、物が落ちてくる。 ・がれきが道に落ちていて車や人が通行しにくい。 ・電気が止まって街灯や信号が使えなくなる。 ・火事、津波、土砂災害が発生することがある。 ・電線が切れて落ちてくる。
	<ul><li>③地震が起きて大きな揺れがおさまった後でも、</li><li>色々な危険に気をつけなければいけないことを気づかせる。</li></ul>	・ガス漏れが発生する。

	学習内容(展開例)	指導ポイント・使用資料
	3. 揺れがおさまった後の行動について考える ①ワークシートを配付し、表の項目①を児童に 読ませて、揺れがおさまった後、最初にする 行動について確認する。	◆ <u>ワークシート03</u>
【展開】	②ワークシートの表の項目②に移り、「君たちの家の周りで起こりそうなこと」「気をつけなければいけないこと」をワークシートに記入させ、発表させる。	■想定される答え ・近所で火事がおこる。 ・家が傾いていて倒れる。 ・隣の家が崩れ、自分の家に倒れてくる。 ・電柱が倒れる。 ・道が崩れて通れない。 ・海の近くなので津波が来る。 ・山の近くなので土砂が崩れてくる。 ・液状化現象がおこる。
	③近所の大人と一緒に安全な場所に向かう間に 気をつけること、気をつける場所について考 えさせ、ワークシートの表の項目③に記入さ せ、発表させる。	<ul><li>■想定される答え</li><li>・がけや斜面の近く。</li><li>・川や海の近く。</li><li>・倒れそうな家や塀などがある場所。</li><li>・がれきなどで道幅が狭くなっている場所。</li><li>・電線が切れてぶら下がっている場所。</li><li>・ガラス片や釘、とがった木片など。</li></ul>
【まとめ】	<ul> <li>3. 地震についてわかったことを確認する</li> <li>①学習した内容について、感想や意見をワークシートに記入させ、発表させる。</li> </ul>	◆ワークシート03  *** *** *** *** ** ** ** ** ** ** **

必須一4

中学校

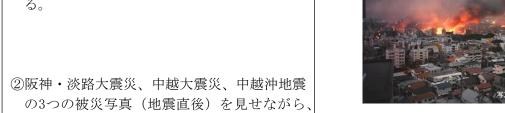
学習のねらい ~地震の発生状況に応じた身の守り方を学ぶ~ 〇3つの地震(阪神・淡路、中越、中越沖)の特徴を知る。 〇発生時期、場所に応じた身の守り方を考える。 知る 考える 行動する

#### 学習内容 (展開例)

#### 指導ポイント・使用資料

- 1. 地震の発生状況に応じた身の守り方について伝える
- ①**写真で見る3つの地震災害**の写真をプロジェクターやモニター等で映す。阪神・淡路大震災、中越大震災、中越沖地震の写真画像を数点ずつ映し、写真ごとに地震名を紹介しつつ、「どういう特徴があるだろうか」と問いかける。

◆<u>資204:写真で見る3つの地震災害</u>



- ②阪神・淡路大震災、中越大震災、中越沖地震 の3つの被災写真(地震直後)を見せながら 発生した時期や場所の違いによって危険や被 害に違いがあることを説明し、身の守り方も 変わってくることを伝える。
- ③地震の発生状況による被害や危険の違いと、 それに応じた身の守り方について学習することを伝える。



- 2. 地震の発生時期や発生場所による被害や危険の特徴、対応行動について考える
- ①<u>ワークシート</u>を配付し、写真を見ながら、導入で示した3つの地震が以下のとおり発生したことを説明する。

阪神・淡路大震災

「1月(冬)平日の早朝、大都市で発生」

中越大震災

開

「10月(秋)土曜の夕方、山間部で発生」

中越沖地震

「7月(夏)の祝日の午前、市街地で発生」

#### ◆ワークシート04-1

※拡大コピーをして黒板に貼ってもよい。



#### 学習内容 (展開例)

#### 指導ポイント・使用資料

②3つの地震について、発生した時期や時間帯、 発生場所等の特徴によって、どのような被害 や危険性があったか考えさせ、ワークシート の裏面に記入させ、発表させる。

#### く指導ポイント>

- 〇以下のような特徴があること。
- ◆阪神・淡路大震災(大都市、冬の早朝)
  - ・暖房器具による火災
  - ・早朝、停電による混乱
  - ・ビルなどの窓ガラスや看板等の崩落など
- ◆中越大震災(山間部、10月の夕方)
  - ・食事準備による火災の危険
  - ・土砂崩れなどによる建物や道路被害
  - ・ 夜間で避難行動、災害確認が困難 など
- ◆中越沖地震(地方都市、7月祝日の午前)
  - ・商店街の看板やアーケードの倒壊
  - 住宅地の塀や建物の倒壊
  - ・出かけた先で被災(帰宅困難) など

展 開

> ③ワークシートを配付し、3つの地震で考えた 「どのような被害や危険が考えられるか」を 記入させ、発表させる。

なお、ワークシートの全項目の記入が時間的 に難しい場合は、「ワークシート04-2 教職 員用資料」を参考に、いくつかの箇所は答え を例示しておき、読み合わせを行って理解を 促す。

④発生時期や発生場所の違いによる被害や危険 性を踏まえて、身を守るために注意すること や対応行動について考え、ワークシートに記 入させ、発表させる。

#### ◆ワークシート04-2

- ことを踏まえ、発生時期や発生場所に応じて、※ワークシートの「例1」は、発生場所による 違いや身の守り方をあらかじめ提示し、時間 帯を中心に学習する場合の例である。
  - ※ワークシートの「例2」は、予想される危険 をあらかじめ提示し、身の守り方を中心に学 習する場合の例である。

#### 3. 地震についてわかったことを確認する

①避難する際には、状況に応じた対応が必要な ことを振り返り、さらに状況にかかわらず共 通する大事な行動についても説明し、地震の 際に身を守る行動をとるように呼びかける。

②学習した内容について、感想や意見を発表さ せる。

#### く指導ポイント>

(共通する行動の例)

- ○家具の転倒防止や避難所の確認などの備 えを行うこと。
- 〇災害時の連絡方法などを家族で話し合っ ておくこと。
- ○周囲の状況に注意しながら行動すること。
- ○倒れそうな建物や塀など危険な場所に近 づかないこと。
- ○道路や交通に注意しながら避難すること。

# 【まとめ

必須-5

中学校

学習のねらい ~避難所と避難者について考える~ 〇中越大震災、中越沖地震の時の避難所の様子を知る。 〇避難所における中学生の役割や行動について考える。

知る 考える 行動する

#### ■事前の準備

- ○【資料303】を参考に、学校区周辺の避難所を調べ、リストを作成しておく。
- 〇避難所生活を経験したことのある先生や知人・友人がいれば、当時の状況を聞いておく。

	学習内容 (展開例)	指導ポイント・使用資料
	1. 避難所への関心を喚起する	注:グループ(班)別の学習を想定
	①学校や自分の家の近くの避難所を知っているか問いかける。	
導入	②学校区周辺の <u>避難所リスト</u> を各班に配って、 地震が起こった時の避難所を確認させる。	◆ <u>資303:各市町村の避難所リストの入手先</u> (上記をもとに教職員が準備する)
	③地震が起こった時の避難所について学習することを伝える。	<指導ポイント> ○自分たちの中学校も避難所になること。 ○自分がそこで避難生活を送る可能性もあること。
	2. 避難所について知る	
	① <b>避難所の様子</b> の写真をプロジェクターやモニター等で映し、中越大震災及び中越沖地震の際の避難所の様子であることを伝え、写真について説明する。 ②感想や思ったことを発表させる。	◆ <u>資205:避難所の様子</u>
【展開】		■想定される答え ・プライバシーがない。 ・周りの音や声がうるさい。 ・トイレが混雑する。
		<b>〈指導ポイント〉</b> ○地震は被災地域が広い場合が多いため、他の災害に比べて避難所を利用する人が多いこと。 ○住宅や地盤が崩れた場合、地震がおさまっても帰宅できない人が多く存在すること。(避難生活が長引く) ○プライバシー確保のため、自動車の中で

暮らす人も多いこと。

	学習内容 (展開例)	指導ポイント・使用資料
	3. 避難所において自分たちができるこ とを考える	
【展開】	① ワークシートを配付し(A3以上に拡大コピーまたは模造紙に同じ表を書いておき、各グループ(班)に1枚ずつ配付することを想定)、避難者が困ることや不便を感じることをグループごとに話し合わせ、表に書き込ませる。 ②上記の避難所で困ることや不便を感じることに対する解決方法について話し合わせ、表に書き込ませる。	◆ワークシート05  <指導ポイント> ○お年寄りや乳幼児、妊婦、外国人、障害者など、災害の時に逃げ遅れたり、避難所で孤立する人たちがいること。 ○避難所生活では、災害発生による不安でパニックになる人がいること。 ○自動車に避難した場合、「エコノミークラス症候群」という病気に注意する必要があること。  ※エコノミークラス症候群とは 狭い空間などで長時間同じ姿勢を取り続けていると、足などに血栓ができ、血管が詰まって、時に死につながる病気。中越大震災後、自動車で避難生活をおくる人たちが発症したことで注目された。
	③上記の解決方法をもとに、自分たちにできる ことを話し合わせ、表に書き込ませる。	■想定される答え ・避難所内の案内表示(マップなど)の作成。 ・食事や物資の配付手伝い。 ・幼い子どもの世話や遊び相手。 ・日本語が不得手な外国人への通訳。 ・避難所の掃除。
	④表に書いたことをグループ毎に発表させ、全 体で共有を図る。	<指導ポイント> ○避難所での行動に正解はなく、他者に対して何ができるかを考え、それを実行するという意識や姿勢が大事であること。
	4. 避難所についてわかったことを確認 する	
【まとめ】	①中越大震災やその他の災害で避難所生活を経験した教職員は、その時の体験談(知人や友人の体験でもよい)を話す。	
	②授業の感想、新たに知ったこと、考えたことを <b>ワークシート</b> に記入させて、何人かの生徒に発表させる。	◆ワークシート05

#### 新潟県防災教育プログラム 学習指導案 【地震災害編】

# 5. 学習指導案【選択学習項目】

選択一1 小学校 低学年

学習のねらい ~学校内の危険箇所を調べる~ 〇学校内を歩いて、地震が起こった時に危険な場所を探す。 〇歩いた結果をもとにマップを作成する。

知る 考える **行動する** 

#### ■事前の準備

- 〇教室から避難場所 (グラウンド、体育館、講堂など) までの区間で、地震が起きた際に危険と思われる場所をあらかじめ確認し、学校の平面図(配置図)などに記入しておく。
- 〇確認する危険箇所の例
  - ・廊下の窓ガラス ・廊下にある棚やロッカー ・階段 ・下駄箱 ・図書室(本棚)
  - ・家庭科室や理科室・屋外の植木鉢や樹木・サッカーゴールなど
- ○学校の平面図(配置図)と画板を学校で準備する(児童の人数分)。

	学習内容 (展開例)	指導ポイント・使用資料
	1. 学校内の危険箇所を調べることを伝える	注:所要時間として2時間程度を想定(導入1と 展開2で1時間、展開3とまとめで1時間)
	①必須学習で使用した教室やグラウンドのイラストを提示(プロジェクターや拡大コピーを利用)し、地震が起こった時に注意することや身の守り方を発表させ、学習したことを確認する。	◆ <u>ワークシート01-1~01-2</u> を参照
導入	②校内を歩いて地震発生時に危険な場所を調べ ることを伝え、実際に歩くコースを説明する。	
	③学校の平面図と画板を全員に配り、気づいた ことをその都度書くように指示し、出発する。	※他のクラスは授業中であるため、騒いだり、 ふざけたりしないように注意しておく。
	2. 校内の危険箇所を調べさせる	
	①事前に説明したコースを歩きながら、地震が起こった時に危険な場所について気づかせ、 平面図に記入(メモ)させる。	※児童の様子を見ながら、窓や棚などへの注意 を促す。途中で集合させ、発表(確認)させ てもよい。
展開】		

# 新潟県防災教育プログラム 学習指導案 【地震災害編】

	学習内容 (展開例)	指導ポイント・使用資料
【展開】	<ul><li>3. 教室にてマップを作成させる</li><li>①拡大した校内の平面図を黒板に貼り、歩いたコースを記入する。</li><li>②児童に気づいた危険な場所を発表させ、それを平面図に記入していく。</li></ul>	
【まとめ】	4. 校内を歩いてわかったことを確認する ①授業の感想や考えたことかを何人かの児童に発表させる。特に危険な場所はどこか、どのように身を守るかについても発表させる。	

選択一2 小学校中学年

学習のねらい ~地震への備えを知る(家庭でできること)~ 〇地震災害の被害を防ぐための備えについて学ぶ。 〇安全に避難するための備えと避難所とついて学ぶ。

**知る** 考える 行動する

#### ■事前の準備

- 〇ホームセンターなどで、<u>家具の転倒防止器具</u>(L字金具など)、引き出しや扉が開くのを防ぐ<u>ス</u> トッパーなどを購入・用意しておく。
- ○ペットボトルの水、<u>乾パン、缶詰、乾電池式のラジオや懐中電灯、防災袋</u>などを用意しておく。 (段ボール箱などに入れて、事前に児童の目に入らないようにする)
- 〇学区内の避難所について調べ、白地図に記入し「<u>避難所マップ</u>」を作成しておく。避難所の場所 については各市町村に問い合わせたり、ホームページで確認しておく。

	学習内容 (展開例)	指導ポイント・使用資料		
【導入】	<ol> <li>地震への備えについて学習することを伝える</li> <li>①地震が起きた時のために、家庭で準備していることがあるかを尋ね、発表させる。</li> <li>②地震が起きた時に身を守るための準備や備えについて学習することを伝える。</li> </ol>	■想定される答え ※以下の4つの視点で分類し、板書する。 「被害を小さくする」 ・家具の転倒防止器具 「安全に避難する」 ・避難所までの複数の避難経路を知っている 「地震の後の暮らしを守る」 ・水や保存食の備蓄 ・防災袋の準備 ・懐中電灯やラジオの用意 「家族との約束」 ・避難所を決めている		
【展開】	2. 「被害を小さくする」ための備えについて教える  ①ワークシートを配付し、家具や家電製品の転倒防止器具、引き出しのストッパーなどを見せて、何をする器具か問いかける。 ②器具の説明を行い、地震時に家具などが転倒したり、物が飛び出してくると、けがをしたり、部屋から出られなくなることを説明する。 ③『ひがいを小さくする』と板書し、そのための備えについて他にないか問いかけ、ワークシートに書かせて、発表させる。  3. 「安全に避難する」ための備えについて教える  ①地震は夜、寝ている時にも起こることを説明する。停電になった時にどうするかを問いか	◆ワークシートA  ◆資304: 地震災害の基礎知識を参照  ■問いかけの例 ・地震が起きた時、被害をなるべく小さくするために、どのような備えがありますか。  <指導ポイント> ○地震で家具や電気製品が倒れたり、照明器		

具や窓ガラスが割れていると、暗い中を動く

のは危険であること。

けながら、懐中電灯を提示し、安全に避難す

るための備えについて考えることを伝える。

		指導ポイント・使用資料
	<ul><li>②「避難所」を知っているか、どういうところかを問いかける。</li><li>③事前に作成した避難所マップを黒板に貼り、児童に自宅近くの避難所を確認させる。</li><li>③『安全にひなんする』と板書し、そのための備えについて他にないか問いかけ、ワークシートに書かせて発表させる。</li></ul>	
	<ul><li>4. 「地震の後の暮らしを守る」ための 備えについて教える</li><li>①防災袋(または非常用持出袋)を見せて、こ</li></ul>	■問いかけの例
	れに何が入っているかを問いかける。 ②防災袋は、地震災害で家から離れる(避難する)際に、大切なもの(現金や預金通帳、常備薬等)や、助けが来るまでの間に必要な水	<ul><li>・この袋の中に何が入っていると思いますか。</li><li>&lt;指導ポイント&gt;</li></ul>
【展開】	と食べ物を持ち出すための備えであることを 説明する。 ③『地しんのあとのくらしをまもる』と板書し、 そのための備えについて他にないか問いかけ、 ワークシートに書かせて発表させる。	〇災害の規模によっては、比較的早い段階 で給水や食料支援が行われることもある。
	5. 「家族との約束」について教える	
	<ul><li>①外で遊んでいる時や留守番をしている時に地震が起こったら、家族と離ればなれになることがあることを伝える。</li><li>②『家族とのやくそく』と板書し、どこに避難するかを決めておくなど、「家族との約束」を話し合っておく必要があることを説明する。</li><li>③「どんな約束が必要だろうか」と問いかけ、</li></ul>	
	ワークシートに書かせ発表させる。 ④家に帰って今日の授業のことを家族に伝え、 「家族の約束」を話し合ってくることを宿題 として出す。	
	6. 地震への備えについてわかったこと を確認する	
(まとめ]	①授業の感想、新たに知ったこと、考えたこと を何人かの児童に発表させる。	

選択一3 小学校 中学年

学習のねらい ~避難所を見学する~ 〇避難所の位置、役割、機能について学ぶ。 〇自宅近くの避難所の位置についても確認する。

知る 考える 行動する

#### ■事前の準備

- 〇市町村の防災担当窓口に避難所について学習を行いたいことを連絡し、以下のような点について 協力を要請する。避難所に指定されている学校は、自分の学校を確認する。
  - ・学校近くの避難所で、設備や倉庫を公開してくれる施設の紹介
  - ・災害時に避難所としてどのように使われるかを説明できる人の紹介
- 〇紹介してもらった施設の担当者に連絡し、訪問・学習する日の調整を行う。
- 〇市町村のホームページや担当者を通じて避難所を確認し、<u>学校区の白地図に書き込んだマップ</u>を 用意しておく。

#### 学習内容 (展開例)

#### 指導ポイント・使用資料

#### 1. 避難所に行ってみることを伝える

- ①「避難所」を知っているか、どういうところかを問いかける。
- ②「避難所」は地震などの災害が起きた際に、 危険を避けるために避難する場所であり、 市町村が指定し、倉庫などの設備を整えて いることを説明する。

注:所要時間として2時間程度を想定(導入1と 展開2で1時間、展開3とまとめで1時間)

#### く指導ポイント>

- 〇大きな災害が発生すると、避難してきた 人たちで学校の体育館などがいっぱいに なること。
- 〇食料や水、毛布などを配るため、倉庫や 物をしまう場所が必要になること。
- ○学校では、体育館などが避難所になり、 その場合は授業で体育館が使えなくなる こと。

【導入】

③<u>中越地震や中越沖地震の時の避難所の様子を</u> <u>示した写真</u>をプロジェクターやモニター等で 映し、避難所のイメージや様子を伝える。

#### ◆資205:避難所の様子



	学習内容(展開例)	指導ポイント・使用資料	
【展開】	<ol> <li>選難所施設を訪ねる</li> <li>①避難所施設を訪ねて、行政職員または施設の担当者から避難所について、普段の様子、災害時の様子、避難所として使用するための設備や機能などを説明していただく。</li> <li>②避難所として使用されたことがある場合は、当時の写真などを見せてもらう。また、新しく整備された避難所の場合は、設備などの資料を見せてもらう。</li> <li>③児童からの質問を受けた後、備蓄倉庫などの施設を見学する。</li> <li>3. 教室に戻って確認する</li> <li>①事前に用意した避難所マップを黒板に貼り、児童に自宅近くの避難所を確認させる。</li> </ol>		
【まとめ】	<ul> <li>4. 避難所についてわかったことを確認する</li> <li>①授業の感想、新たに知ったこと、考えたことをワークシートに記入させて、何人かの児童に発表させる。</li> </ul>	◆ワークシートB-1  (少学校中学は、語P-3 新聞の表達する) たい (か ばい ままた 年 相 番 名前 ( ) ) ・シラ こままり また かい か 今今日の授業で思ったこと、考えたことを書いてみよう。	

選択一4 / 小学校 中学年

## 学習のねらい ~防災倉庫を調べる~

○地域の防災倉庫に入っている防災備品を調べる。 ○防災備品の役割を知り、地震への備えを学ぶ。 知る 考える **行動する** 

※防災倉庫には次の2種類のタイプがあり、本授業では<u>救助救援型</u>の倉庫を見学する。

①備蓄型 毛布や水、食料などの備蓄品を収納。学校や公共施設に設置されている。

②救助救援型 スコップやポンプ、チェーンソーなどを収納。近隣の自主防災組織(町内会等) に設置されている。

#### ■事前の準備

- 〇近隣の自主防災組織(町内会、自治会)に連絡し、防災倉庫の有無や救助救援型であることを確認した上で、防災倉庫の見学について協力を依頼する。
- 〇授業に使用できる環境条件(安全な立地、倉庫前に空間がある、近所の迷惑にならない など) が整っているかを確認する。
- 〇防災倉庫について不明な場合は、市町村の防災担当窓口に連絡して、学校周辺の防災倉庫 を紹介してもらう。
- 〇自主防災組織の方などに立ち会いを依頼し、可能であれば防災備品の説明をしてもらう。また、 立ち会いが難しい場合は、事前打ち合わせを行い、備品の概要や役割等を聞いておく。

	学習内容(展開例)	指導ポイント・使用資料
	1. 防災倉庫を調べることを伝える	注:所要時間として2時間程度を想定(導入1と 展開2で1時間、展開3とまとめで1時間)
【導入】	①災害に備えて地域内に防災倉庫があることを 知っているか問いかけ、知っていることを発 表させる。	<ul><li>■問いかけの例</li><li>・防災倉庫を知っていますか。</li><li>・どこにあるか知っていますか。</li><li>・中にどんなものが入っていますか。</li></ul>
<u></u>	②学校の近くの防災倉庫を調べることを伝え、 倉庫の場所を説明する。	
	③ <u>ワークシート</u> と画板を配り、倉庫の中身を記録するように指示し、終わったら出発する。	◆ <u>ワークシートC</u>
	2. 防災倉庫に行って調べさせる	
	①防災倉庫を開けて、中に入っている備品を児 童に確認させる。事故がないよう、取り扱い に注意を促す。	
【展開】	②倉庫内にある備品の役割を調べさせ、ワーク シートに記入させる。	

	学習内容(展開例)	指導ポイント・使用資料
【展開】	学習内容(展開例)  3. 教室に戻って確認する  ①黒板に拡大したワークシート(リスト部分)を貼り、倉庫に入っていたものを児童に発表させながら記入していく。  ②リストが完成したら、それぞれの品物がなぜ用意されているのかを考えさせ、ワークシートに記入させて発表させる。  ③地域内には救助や救援のための倉庫があることを確認する。  ④その他に、食料や水、毛布などを備蓄している防災倉庫があることを説明し、色々な備えを行っていることを理解させる。	指導ポイント>  ○防災倉庫の中には、地震で建物が壊れたり、 火事が起こった時のための防災備品、水や 食料など避難所で必要な備蓄品など、色々 な備えがあること。  ※食料、備蓄の有無については、市町村によっ て異なる。  ※備蓄型については◆資281~285:防災備蓄倉 庫の一例を見せて説明する。
	4. 防災倉庫についてわかったことを確	資283 食料 資285 簡易トイレ
【まとめ】	<b>認する</b> ①授業の感想、新たに知ったこと、考えたことを <b>ワークシート</b> に記入させて、何人かの児童に発表させる。	◆ <u>ワークシートB</u>

選択 - 5 小学校 高学年

学習のねらい ~避難所までの避難ルートを調べる~ 〇避難所の位置と避難ルートを調べる。 〇危険箇所を探し、安全な避難ルートがどこかを考える。

知る 考える

行動する

#### ■事前の準備

- 〇本授業は「必須-3:揺れがおさまった後の身の守り方を学ぶ」で学習した「避難所への安全な 移動」を実践する授業であり、必須-3の授業と関連付けて実施する。
- 〇事前に下見を行い、無理のないコース(時間内に戻って来られる、事故の心配が少ない など)を 確認しておく。
- 〇児童の安全確保のため、可能であればPTAや地域の町内会・自治会等の協力を得る。
- ○学校周辺の白地図、画板、カメラを準備・手配する。
- 〇「展開3避難ルートマップを作成させる」では、児童が撮影した写真を事前に印刷しておく。

	学習内容(展開例)	指導ポイント・使用資料
【導入】	1. 避難ルートを調べることを伝える ①避難所マップを黒板に貼り、学校区内にある 避難所について確認する。	注:所要時間として3時間程度を想定(導入1と 展開2で2時間、展開3とまとめで1時間) また、グループ(班)別の学習を想定
	②自宅にいる時に地震が起きた場合、どの避難所に行くのかを児童に確認させ、避難所ごとにグループ分けをし、リーダーを決める。  ③グループごとに、自宅(住んでいる地区)から最寄りの避難所までのルートと危険箇所を確認し、マップを作成することを説明する。  ④ <u>白地図や画板</u> などを配付し、各グループの出発地点を決めて、出発させる。	<b>〈指導ポイント〉</b> ○避難ルートにおいて、以下の箇所(例)が危険であること。 ・斜面やがけ、川(橋)のある場所・地震で倒れる可能性のある場所(ブロック塀、お墓、石碑など)・狭い道路、交通量が多い道路 など
<b>[</b> ]	<ul><li>2. 避難ルートを調べさせる</li><li>①グループごとに、出発地点から避難所までのルートを歩かせる。</li><li>②気がついた危険箇所を白地図に記録させたり、写真を撮影させたりする。</li></ul>	
展開】	<ul><li>3.避難ルートマップを作成させる</li><li>①グループ別に、学校周辺の大きな白地図に歩いたルートを記入させる。危険箇所の写真を貼らせ、危険な理由も書かせる。</li><li>②最も危険が少ないルートはどこかを話し合わせ、考えたコースを地図に記入させる。</li></ul>	<b>&lt;指導ポイント&gt;</b> ○気がついた危険箇所と安全な避難ルート を覚えておくこと。
【まとめ】	<ul><li>4. 避難ルートについてわかったことを確認する</li><li>①授業の感想、新たに知ったこと、考えたことをワークシートに記入させて、何人かの児童に発表させる。</li></ul>	◆ <u>ワークシートB</u>

選択一6 小学校 高学年

学習のねらい ~地震の被害から生活への影響を考える~ 〇地震による生活インフラ(電気、水道等)の被害を知る。 〇地震災害による生活への影響(不便さ)を考える。

知る 考える 行動する

	学習内容(展開例)	指導ポイント・使用資料	
	1. 地震による生活への影響について学 習することを伝える	注:グループ(班)別の学習を想定	
	① <b>画像資料</b> から地震被害の写真を何点か選び、 プロジェクターやモニター等で映す。	◆ <u>資287:地しんによる生活へのえいきょう</u>	
【導入】	<ul><li>②地震によって電気や水道などの生活を支える 社会基盤(生活インフラ)が壊れ、使えなく なることに気づかせる。</li><li>③大きな地震が起きて生活インフラが使えなく なった時、生活にどのような影響が出るかを 学ぶことを伝える。</li></ul>	<指導ポイント> ○水道(上下水道)、電気、ガスが使用できなくなること。 ○電話(固定・携帯ともに)が通じにくくなること。 ○道路が通れなくなること。 ○鉄道が止まること。	
	2. 地震による生活インフラの被害と生活 への影響について考えさせる		
	① <b>ワークシート</b> を配付し、地震によって生活インフラが使えなくなると、どのようなことが困るかをグループで話し合わせ、ワークシートに記入させる。	◆ <u>ワークシートD</u>	
	②グループで話し合ったことを発表させる。	◆ <u>ワークシートD(教職員用資料)</u> を参照	
展開】	③次に、生活インフラが使えなくなった場合、 どのように行動すればよいかをグループで話 し合わせ、ワークシートに記入させる。	<ul><li>■問いかけの例</li><li>・生活インフラが使えない時、家庭や学校でどのような工夫をすればよいだろう。</li></ul>	
	④グループで話し合ったことを発表させる。 他グループの発表を聞いて気づいたことなど を児童に発言させて理解を深めさせる。	<b>〈指導ポイント〉</b> ○地震災害は、揺れがおさまった後も、生活が不便になるなど、影響が長く続く可能性があること。 ○停電や道路の損壊などの被害もあり、安全な場所へ避難する際も注意が必要なこと。	
_	3. 学習した内容を振り返る		
【まとめ】	①自分なら何ができるかをワークシートに記入 させて、何人かの児童から発表させる。		

選択一7

小学校 高学年 <u>中学校</u> 学習のねらい ~安否情報を発信できるようにする~ 〇安否情報の重要さと仕組みを知る。 〇災害用伝言ダイヤルの使い方を疑似体験して覚える。 知る 考える

■事前の準備

- ○ストップウォッチと電話のダイヤルを模したシート(資306をコピーする)を準備する。
- 〇あらかじめ、災害用伝言ダイヤルの使い方を確認しておく(次頁参照)。

#### 指導ポイント・使用資料 学習内容 (展開例) 1. 安否情報について学習することを伝 く指導ポイント> える 〇安否情報とは次の意味であること。 「地震などの大きな災害が起こった場合、 ①「安否情報」と黒板に板書し、この言葉を聞 災害が発生した地域との連絡が取りにく いたことがあるかを問いかけ、知っているこ 導 くなるが、家族が離ればなれになった時 とを発表させる。 は連絡を取り合う必要がある。家族や親 せき、友人などに無事であることや居場 ②安否情報の意味を説明し、安否情報について 所を知らせ、連絡が取れるようにするた 学習することを伝える。 めの情報を『安否情報』という。」 2. 安否情報とは何かを教える ①ワークシートを配付し、安否情報の仕組みを │◆ワークシートE 説明する。 ②以下のことを考えさせ、ワークシートに記入 ■想定される答え 「安否を知りたい人」 させて発表させる。 1) 安否を知りたい人、伝えたい人はどのよう ・被災地で離ればなれになった人 ・被災地の外にいる家族、親せき、友人 な人か。 2) 安否情報でやり取りされる情報、伝えたい 「安否を伝えたい人」 ・被災地域にいる人(居住者、旅行者) 情報や知りたい情報は何か。 ③安否情報をやり取りする目的について考えさ ■想定される答え 「安否情報の目的」 せ、発表させる。 展 ・離ればなれになった家族が再会するため 開 ③自分が家族と離ればなれになったという状況 ・家族や親せき、友人などを安心させるため を想像させ、安否を伝えるメッセージをワー 「安否情報で伝える内容」 ・ 今いる場所 (家、避難所、病院など) クシートに記入させる。 ・自分や家族の無事やけがなどの有無 • 自宅の被害の状況

# 3. 安否情報を伝える練習をする

①「災害用伝言ダイヤル」を使用して安否情報 を伝える方法を説明し、「30秒」以内で伝え なければいけないことを教える。 その他困っていることや欲しいもの

	学習内容(展開例)	指導ポイント・使用資料
	②自分が家族と離ればなれになったという想定 で、録音するメッセージを考えさせ、ワーク シートに記入させる。	
【展開】	<ul><li>③<b>ダイヤルを模した資料</b>を使用し、考えたメッセージで、災害伝言ダイヤルを使う疑似体験をさせる。</li><li>1)実際の手順(下記参照)に沿って、メッセージを残させる。30秒以内におさまるか</li></ul>	◆ <u>資料306:電話機のダイヤル</u>
	どうかをストップウォッチで計測して確認する。 2) 再生の手順を行わせる。 ④数人から発表させ、録音内容について話し合わせる。	<b>&lt;指導ポイント&gt;</b> ○災害用伝言ダイヤルの使い方を覚え、自分一人でも使用できること。 ○30秒で伝える内容を覚えておくこと。
	3. 学習した内容を振り返る	
【まとめ	①授業の感想、新たに知ったこと、考えたことをワークシートに記入させて、何人かの児童に発表させる。	<b>&lt;指導ポイント&gt;</b> ○災害伝言ダイヤルは、伝えたい相手も使
8]	②災害用伝言ダイヤルは家族が知っていないと情報が伝わらないことを説明し、家庭で今日学習したことを話すように伝え、災害用伝言ダイヤル「171」を家族で覚えてもらう。	田できなければ、伝えることができないこと。 〇家族全員で171を覚える必要があること。

#### 参考:災害用伝言ダイヤルの使い方

- 1. メッセージを残す (録音・登録する)
  - ①「171」をダイヤルする。(固定電話、携帯電話、公衆電話共通)
  - ②録音(1)か再生(2)かを聞いてくるので、録音の「1」を選択し番号を押す。
  - ③自宅の番号を市外局番から押す(ダイヤルする)。(これが暗証番号になる)
  - ④メッセージを30秒以内で録音する。
- 2. メッセージを聞く(再生する)



- ①「171」をダイヤルする。(固定電話、携帯電話、公衆電話共通)
- ②録音(1)か再生(2)かを聞いてくるので、再生の(2)を選択し番号を押す。
- ③自宅の番号を市外局番からダイヤルする。 (これが暗証番号になる)
- ④登録されたメッセージを聞く。

#### 災害伝言ダイヤルの体験利用が可能な日(NTT日本)

毎月1日、15日 00:00 ~ 24:00 1月1日 00:00 ~ 1月3日 24:00 防災週間 (8月30日 9:00 ~ 9月5日 17:00) 防災とボランティア週間 (1月15日 9:00 ~ 1月21日 17:00)

選択一8

中学校

学習のねらい ~避難所運営計画を作成する~ 〇避難所の役割や機能について学ぶ。 〇自分たちの学校をモデルに避難所運営計画を考える。

知る **考える** 行動する

#### ■事前の準備

- 〇本授業は、災害時に避難所に指定されている中学校を想定した指導案であり、「必須-5:避難 所と避難者について考える」の後に学習すると効果的である。
- 〇グループ作業用の<u>A4~A3サイズの学校配置図(平面図)</u>、黒板掲示用に<u>拡大コピーした学校配置</u>図(平面図)、黒板掲示用に拡大コピーしたワークシートFを準備する

#### 学習内容 (展開例) 指導ポイント・使用資料 1. 災害時に学校が避難所になることを 注:所要時間として3時間程度を想定(導入1と 伝える 展開2で2時間、展開3とまとめで1時間) また、グループ(班)別の学習を想定 ①学校配置図の拡大コピーを黒板に貼り、地震 などの災害時に、中学校が地域の避難所にな ※避難所に指定されていない中学校の場合 ることを説明する。 中学校が地域の避難所になっていることが多 【 導 入 ②中越大震災や中越沖地震などの災害時に、学 いことを説明する。 校が避難所になったことがある場合は、その 時の様子や経験談等を伝える。 ③学校のことを詳しく知っている生徒の視点か ら、避難してきた人たちが快適で使いやすい 避難所運営計画を考えることを伝える。 2. 避難所に必要な機能や役割、施設の 利用について考える ①ワークシートをグループ別に配付し、避難所 ◆ワークシートF において配慮しなければいけないことを話し ◆資205:避難所の様子を必要に応じてプロ 合わせ、ワークシートに記入させる。 ジェクターやモニターなどで映す。 ②話し合った内容を発表させ、意見交換させる。 く指導ポイント> 〇避難所は、乳幼児から高齢者、外国人も 利用すること。 展開 〇大勢の人が利用するので混雑すること。 〇避難生活が長期化することもあり、宿泊 や食事の提供も行うこと。 〇食料や水、毛布、薬などの用意が必要な

③避難所に必要な機能や空間、適した場所や利用できる学校内の施設について、グループで話し合わせ、ワークシートに記入させる。

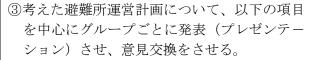
こと。

#### 学習内容 (展開例)

#### 指導ポイント・使用資料

# 3. 自分たちの避難所運営計画を作成させる

- ①<u>学校配置図の拡大コピー</u>をグループに配り、これまで話し合ってきた内容をもとに、以下のことを配置図に記入させる。
- 1) 計画を立てる際に重視したこと
- 2) 必要となる空間・スペース
- 3) 配置する場所、利用する教室
- ②支援する立場から、中学生として避難所でで きることを考えさせる。



- 1) 計画するにあたって重視・配慮したこと
- 2) 考えた避難所の空間と配置図
- 3)独自に考えた工夫やアイデア、特色
- 4) 計画した避難所で中学生が行う支援活動



資260



資264



資265

### 3. 学習した内容を振り返る

①授業の感想、新たに知ったこと、考えたこと を<u>ワークシート</u>に記入させて、何人かの生徒 に発表させる。

#### ◆ワークシートG-1

# 【まとめ

開

選択一9 小学校中学校

小学校 学習のねらい ~地震災害について話を聞く~ 中学校 〇災害経験者や専門家(ゲストティーチャー)の話を聞く。 (全学年) 〇災害を自分事、身近なこととしてとらえ、意識を高める。

知る 考える 行動する

#### ■事前の準備

- 〇ゲストティーチャーを依頼する。必要に応じて、次頁を参考に学習テーマを考え、市町村の防災担当窓口、防災や災害に関する機関やNPO団体等に連絡し、ゲストティーチャーの紹介や出前講座の実施について相談する。市町村の窓口については【資料305】新潟県市町村防災担当部課連絡先を参照。
- 〇ゲストティーチャーと事前に打ち合わせを行い、児童生徒に話してもらいたいことを伝え、授業 内容を組み立てる。また、使用機材(パソコン、プロジェクター、実験機材など)を確認する。
- 〇児童生徒には、ゲストティーチャーが来ることを伝え、聞きたいこと(質問)を考えさせておく。
- 〇児童生徒からの質問内容が事前に把握できる場合は、ゲストティーチャーに伝えておく。

	学習内容(展開例)	指導ポイント・使用資料
【導入】	1. ゲストティーチャーを紹介する ゲストティーチャーを紹介し、地震災害に 関してどのようなことをしているのか(研究、 被災地支援、意識啓発など)、または経験し たのか(被災、災害ボランティアなど)を簡 単に聞く。	
【展開】	<ul> <li>2. ゲストティーチャーから話をしていただく</li> <li>事前の打ち合わせに基づいて話してもらう。配付資料があれば配付する。活動内容や用語など、理解の難しい内容は、随時確認、補足説明をする。</li> <li>3. 質疑応答を行う</li> <li>児童生徒からゲストティーチャーに質問をさせて、答えてもらう。</li> </ul>	
【まとめ】	4. <b>学習した内容を振り返る</b> 授業の感想、新たに知ったこと、考えたことを <b>ワークシート</b> に記入させて、何人かの児童から発表させる。	◆ <u>ワークシートB</u> (小学生用) ◆ <u>ワークシートG-2</u> (中学生用)

## (参考) 学習テーマとゲストティーチャーについて

	学習テーマ	ゲストティーチャー(例)	想定される内容
地震発生前・備え	防災	<ul><li>・自主防災組織</li><li>・消防団</li><li>・行政の防災担当職員</li><li>・気象庁や地震の研究者</li></ul>	<ul> <li>・地域の防災組織や防災活動</li> <li>・防災のための施策や事業 (ハード整備、協定や普及啓発などのソフト施策)</li> <li>・地震に備える取組(備蓄や訓練など)</li> <li>・「減災」の意味や考え方</li> <li>・耐震構造、耐震補強</li> <li>・地震予知、地震研究の動向</li> <li>・児童生徒へのメッセージ など</li> </ul>
地震発生時・発	緊急対応	・消防職員 ・警察署員	<ul><li>・地震発生時の対応 (体制や対応行動)</li><li>・地震災害時に多い出動要請の内容</li><li>・二次災害の予防</li><li>・児童生徒へのメッセージ など</li></ul>
	<b>救援・救護</b> ※災害時の救援・救護活動 体験者が望ま しい	<ul> <li>・消防職員や消防団</li> <li>・自衛隊の隊員</li> <li>・救護に関わった救急隊員や医療関係者</li> <li>・災害ボランティア経験者</li> <li>・ボランティアコーディネーター</li> </ul>	・組織の概要や日頃の活動 ・地震災害発生時の行動 (集合や現場情報の収集等) ・救援や救護活動の経験談 ・救援・救護のための車両や器具、技術 ・避難行動や日頃の備えへのアドバイス ・将来の進路・職業として目指すには ・児童生徒へのメッセージ など
発生直後の取組	避難支援	・避難所の設置や運営に関わった組織・団体の関係者 (社会福祉協議会、災害ボランティアグループ など)	<ul> <li>・組織の概要や日頃の活動</li> <li>・地震災害発生時の行動 (集合や現場情報の収集等)</li> <li>・避難所の役割や機能、運営について</li> <li>・避難所で起こることや経験談</li> <li>・避難所運営における児童生徒への期待</li> <li>・将来の進路・職業として目指すには</li> <li>・児童生徒へのメッセージ など</li> </ul>
	復旧	・地震災害からの復旧活動に取り組んだ組織の関係者 (北陸地方整備局、新潟県 、 JR、NTT、ガス会社 など)	<ul><li>・復旧活動の概要</li><li>・復旧活動のエピソード</li><li>・児童生徒へのメッセージ など</li></ul>

## (参考) 学習テーマとゲストティーチャーについて (続き)

	学習テーマ	ゲストティーチャー(例)	想定される内容
	生活支援	・仮設住宅での支援、地域に 戻ってからの生活や復興を支 援した組織・団体の関係者 (NPO、地域復興支援員、中 越防災安全推進機構 など)	・組織の概要や日頃の活動 ・支援活動に参加した動機や理由 ・支援活動における経験談 ・故郷への思いや人間の絆 ・将来の進路・職業として目指すには ・児童生徒への期待やメッセージ など
	復 興 活 動 復 興 支 援	<ul><li>・復興に取り組む被災地の住民 グループ</li><li>・復興を支援する中間支援組織</li><li>・中越防災安全推進機構</li></ul>	・組織や復興活動の概要 ・復興活動における経験談 ・活動で感じた故郷への思いや人間の絆 ・児童生徒への期待やメッセージ など
地震発生後の取組	被災経験を語り継ぐ	・中越大震災などの地震災害の 被災者(住民など)	<ul><li>・地震発生時や直後の様子</li><li>・避難行動の様子</li><li>・避難所や仮設住宅での暮らし</li><li>・経験から学んだこと など</li></ul>
		・地震災害を経験した市町村の 職員や学校の教職員	・地震発生時や直後の町や学校の様子 ・住民や生徒の避難の様子 ・避難所や仮設住宅での被災者の様子 ・被災者、生徒児童をサポートする取組 ・経験から学んだこと など
		・被災体験の収集や記録に取り 組むNPO団体や個人	・被災体験の収集や記録の手法 ・被災体験から学ぶ教訓や知見 ・記録や伝えることの意義 など
	その他	<ul><li>・地震災害に関する専門家 (大学、研究機関、郷土史家など)</li></ul>	・新潟県で発生した地震災害の特色 ・地震災害によって学んだ教訓や課題 ・地震災害によって生まれた技術や制度 ・「減災社会」という考え方 ・児童生徒への期待やメッセージ など









## 6. モデル校における授業実践の紹介

新潟県防災教育プログラム地震災害編の制作に際して、モデル校(実践校)となった長岡市 小立川崎小学校、四郎丸小学校、宮内中学校、旭岡中学校で行った実践授業の様子を紹介しま す。

#### ◆長岡市立川崎小学校での授業実践

○日時:平成25年6月14日(金)9:35~11:25

○会場:長岡市立川崎小学校

○学年: 低学年(2年生)で1時間、中学年(4年生)で1時間





■低学年(2年1組、2組)

【必須-1:地震からの身の守り方

(学校内)を学ぶ】

過去に起きた地震の年表をプロジェクターで映し、新潟県にも過去に大地震が起きたことを紹介しました。また、ワークシートを配付し、地震前の学校内のイラストを見せて危ないところに〇を付けさせ、学校内における地震後のイラストと比較をさせました。

最後に、机の下に隠れて、うまく隠れているか児童同士で確認させました。



■中学年(4年1組、2組)

【必須-2:地震からの身の守り方

(学校外)を学ぶ】

地震による家や町の被害の様子を撮影した 写真をモニターで映し、大地震が起きた時の 町の被害の様子を紹介しました。また、ワー クシートを配付し、地震発生前のイラスト (家の中、道路、店の中)を見せて、危ない こと、気をつけることを記入させ、地震後の イラストと比較をさせました。

最後に、地震で家族が離ればなれになった 時の連絡方法として、家族の携帯電話番号を 記憶しておくことを確認しました。

#### ◆長岡市立四郎丸小学校での授業実践

〇日時:平成25年10月30日(月)13:55~14:40

○会場:長岡市立四郎丸小学校 ○学年:高学年(5年生)で1時間



#### ■高学年(5年2組)

【必須-3:揺れがおさまった後の 身の守り方を学ぶ】

地震発生直後に何が起こるかを説明した後、揺れがおさまった後の危険について写真等で示し、その特徴について児童から発表させました。また、ワークシートを使って「揺れがおさまったら、次に何を確かめるか」「家の周りで何がおきそうか想像してみよう」「ひなん所にむかう間に何に注意するか」について考え、発表させました。

#### ◆長岡市立宮内中学校での授業実践

〇日時:平成25年7月1日(月)13:40~14:30

○会場:長岡市立宮内中学校

○学年:1年生で1時間



#### ■中学1年

【必須-4:地震の発生状況に応じた 身の守り方を学ぶ】

地震の起こるメカニズムを動画で紹介し、 地震には海溝型地震、直下型地震などがあり、 新潟県ではどの地震が起こりやすいかを伝え ました。また、ワークシートを使って、阪 神・淡路大震災、中越大震災、中越沖地震の それぞれの発生時の状況を比較させ、発生状 況の違いによる注意事項と、身を守るための 行動について考えさせました。

#### ◆長岡市立旭岡中学校での授業実践

○日時:平成25年5月23日(木) ○会場:長岡市立旭岡中学校

○学年:3年生で1時間

#### ■中学3年

【必須-5:避難者と避難所について考える】

地震発生時の避難所の様子を画像で確認させた後、班ごとに分かれ、避難所での行動について意見交換を行わせました。話し合った内容は班ごとに発表させました。

#### 新潟県防災教育プログラム地震災害編の制作について

新潟県防災教育プログラム地震災害編の制作にあたっては、新潟県内の小中学校からモデル校を選定するとともに、長岡造形大学澤田雅浩准教授を座長として、モデル校の教職員、市町村教育委員会、市町村防災担当課、県関係課からなるワーキンググループを設置し、それぞれの有する経験や知見、情報等を活かしながら、意見交換を重ねてきました。

平成24年度に『試行版』を制作し、DVDとして県内各校に配布しました。平成25年度はモデル校において、地震災害に関する防災教育の公開授業を行い、学校現場における活用性や教育効果等を検討・検証した上で『試行版』を改訂し、DVDで県内各校に配布しました。

さらに平成25年度は、他の災害(「津波災害」「洪水災害」「土砂災害」「雪災害」)の 防災教育プログラムの完成を踏まえ、表記方法や文章表現等を全体的に見直し、他の災害編 と併せて、バインダー冊子及びDVDで県内各校及び関係機関等に配布しております。

#### <地震災害ワーキンググループの構成>

座長	長岡造形大学 澤田雅浩准教授	
モデル校 (実践校)	長岡市立宮内中学校	
モデル校	長岡市立旭岡中学校・川崎小学校・四郎丸小学校	
市教育委員会	長岡市教育委員会	
市防災担当課	長岡市危機管理防災本部	
新潟県関係課	防災企画課・教育庁保健体育課	
事務局	一般社団法人北陸地域づくり協会(地震災害ワーキングの事務局) 公益社団法人中越防災安全推進機構 地域防災力センター (事業全体の事務局)	

# 新潟県防災教育プログラム 【地震災害編】

平成26年2月 平成27年10月(※一部データ修正) 公益財団法人 新潟県中越大震災復興基金 (協力:新潟県教育委員会、新潟県)

制作:公益社団法人 中越防災安全推進機構

地域防災力センター